

研究目的、背景など

本研究計画調書は、人文社会・理工・生物の「系」の区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」(公募要領111頁参照)を参考にすること。

本欄には、本研究の目的と背景などについて、記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、

1. これまでの研究活動を踏まえ、本研究の着想に至った経緯
2. 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」
3. 本研究の目的および学術的独自性と創造性
4. 本研究で何をどこまで明らかにしようとするのか
5. 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけについて、具体的かつ明確に記述すること。

(概要)

(本文)

※留意事項①:

1. 特別推進研究は人文社会・理工・生物の「系」の区分により、広い分野の委員構成で多角的視点から審査が行われることに留意の上、研究計画調書を作成すること。

※留意事項②:

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・入力要領を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。
5. 本留意事項(斜体の文章)については、研究計画調書の提出時には削除すること。

特別推進研究としての意義

本研究種目は、新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究を支援するものです。
本欄には、以下の点に留意して、具体的かつ明確に記述すること。
・期待される研究成果と新しい学術を切り拓く上での本研究の学術上の意義・インパクト

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための研究計画・方法について、次の点に留意して、具体的かつ明確に記述すること。

- ・研究の準備状況（本応募研究課題を実行する際に前提となる、データの収集・分析・評価・検討、基礎となる予備実験、実験機器(装置)の設計・製作、手法の開発、研究組織の構築(研究協力者等の参画)などの準備状況と、研究計画との関係がわかるように記述すること。）
- ・研究分担者とともに進行する場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割

応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動とその成果の具体的な内容、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について記述すること。なお、「(1)これまでの研究活動とその成果の具体的な内容」には、必ず、これまでに受けた研究費とそれによって得られた成果等も含めて記述することとし、必要に応じて今回の研究構想に直接関係しないものを含めてもよい。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。